

November 29, 2021

**【前日の為替概況】ドル円、大幅続落 コロナ変異型確認で経済の先行きに不透明感が広がる**

26日のニューヨーク外国為替市場でドル円は大幅に続落。終値は113.38円と前営業日NY終値(115.36円)と比べて1円98銭程度のドル安水準となった。南アフリカで感染力が強いとされる新型コロナウイルスの変異型が確認されたのをきっかけに経済の先行き不透明感が広がり、世界的に株価が急落。リスクオフの円買い・ドル売りが優勢となった。米10年債利回りが一時1.4697%前後と10日以来の低水準を付けたことも相場の重しとなり、一時113.05円まで下げ足を速めた。その後の戻りも113.56円付近にとどまった。市場関係者からは「本日は米感謝祭翌日で米債券・株式・商品市場が短縮取引となったため、取引参加者が少なく市場流動性が低下。薄商いの中、値が振れやすい面もあった」との声が聞かれた。

米感謝祭明けの米国株相場はダウ平均が一時1050ドル超下落したほか、ナイト・セッションの日経平均先物は前日終値比1280円安の2万7510円まで売り込まれた。WTI原油先物価格は一時14%超の暴落となった。

なお、世界保健機関(WHO)は新型コロナ変異型を最も警戒レベルが高い「懸念される変異型」に分類し、「オミクロン株」と命名した。

ユーロドルは続伸。終値は1.1317ドルと前営業日NY終値(1.1209ドル)と比べて0.0108ドル程度のユーロ高水準だった。米長期金利の大幅低下に伴うユーロ買い・ドル売りが優勢となり、6時30分過ぎに一時1.1331ドルと日通し高値を付けた。なお、新型コロナ変異株を巡る懸念が高まる中、米短期金融市場では米連邦準備理事会(FRB)による利上げ観測が後退した。

ユーロ円は急反落。終値は128.35円と前営業日NY終値(129.31円)と比べて96銭程度のユーロ安水準。NY序盤に一時128.96円付近まで買い戻される場面もあったが、ドル円が下げ幅を広げるとユーロ円にも売りが出て一時127.80円と2月24日以来の安値を更新した。

世界的な株安に伴うリスクオフの円買いが優勢となり、ユーロ円以外のクロス円も軟調だった。ポンド円は150.73円、豪ドル円は80.48円、NZドル円は77.05円、カナダドル円は88.41円まで値を下げた。

トルコリラ円は一時8.96円まで下落する場面があった。エルドアン・トルコ大統領が「トルコの金利は今後低下する」「国民が高金利に苦しむことはなくなるだろう」と述べ、低金利を維持する姿勢を改めて強調。トルコ中銀の金融緩和スタンスが継続するとの見方が広がり、リラ売りも進んだ。

**【本日の東京為替見通し】オミクロン株の続報に要注目、ランドやリラの動きにも警戒**

本日の東京時間のドル円は神経質な動きとなるだろうが、上値は限られるか。11月10日以来の水準までドル円は下落したこともあり、本邦実需勢などを含め値ごろ感から相応のドル買い意欲が出てくる可能性が高い。すでに早朝のオセアニア市場でも買いが優勢となっている。市場参加者の中では、先月の中国恒大集団のデフォルト懸念から、市場がリスクオフの円買いに動いた時もトレンドが短かったことで、日米金利差からドル円は下がったら買うという姿勢を崩していない投資家も多い。また、先週末から米小売りで始まったブラックフライデーのセールはかつてのような賑わいをみせていないが、オンラインのサイバーマンデーで多くの消費が期待されている。目先の米経済指標が急速に落ち込むことも考えにくいことは、ドル円の買い支え要因となりそうだ。

しかしながら、南アで確認された新型コロナウイルスの新たな変異株(=オミクロン株)の影響で、原油価格が急落していることもありインフレ懸念が後退、米金利も急低下し、利上げ観測も後ずれする可能性が高まっていることはドルの重しとなりそうだ。現状のオミクロン株については、スパイクタンパク質に30を超える変異があり、人から人へと簡単に感染する可能性が高く、いくつかはよく知られていない変異が確認されている。先週末、南アのゴードン南アフリカ公共事業相は「新たな変異株について10日間ですらに明確化すると予想」と述べているが、ウイルスの威力やワクチンの効果などについての続報次第で為替市場はリスクオン・オフのどちらにも大きく傾きやすいことに注意をしておきたい。

ドル円以外では、新興国通貨の動きには要警戒。南アは上述のオミクロン株の影響で、英国をはじめ複数の国で渡航禁止になるなど、今後の経済的な影響が大きい。ランド円は今年2月以来の水準、ドル/ランドは年初来安値を更新するなど大幅に下落している。ウイルス感染も拡大する中、今月初めの選挙では与党アフリカ民族会議(ANC)の支持率も急低下していることで、ロックダウンに舵を切るのも難しい状況だ。仮にロックダウンを行うと、財政赤字問題やANCの支持率低下による暴動の発生なども起こりうる。

また、トルコリラもエルドアン・トルコ大統領の低金利を促す発言で再び急落している。本日もランドとリラは乱高下が予想される。

また、欧州通貨も神経質な動きを見せそうだ。英国では小売店や公共交通機関での利用にはマスク着用の義務化を再び導入、オランダでは南アからの航空便 2 機で 61 人のウイルス感染者を確認するなど、再びウイルスの感染が大きなトピックとなっている。各国の対応次第で欧州通貨も大きな動きを見せるか。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

### <国内>

- 08:50 ◇ 10 月商業販売統計速報（小売業販売額、予想：前年比 1.1%）
- 17:30 ◎ 黒田東彦日銀総裁、講演（Tokyo International Financial Forum 2021）

### <海外>

- 16:00 ◇ 10 月トルコ貿易収支（予想：15.0 億ドルの赤字）
- 17:15 ◎ ビルロワドガロー仏中銀総裁、講演
- 17:30 ◎ 7-9 月期スウェーデン国内総生産（GDP、予想：前期比 1.8%）
- 18:30 ◇ 10 月英消費者信用残高（予想：4 億ポンド）
- 18:30 ◇ 10 月英マネーサプライ M4
- 18:30 ◎ センテノ・ポルトガル中銀総裁、講演
- 19:00 ◎ 11 月ユーロ圏経済信頼感指数（予想：117.5）
- 19:00 ◎ 11 月ユーロ圏消費者信頼感指数（確定値、予想：▲6.8）
- 21:00 ◇ 10 月メキシコ失業率（季節調整前、予想：4.11%）
- 22:00 ◎ 11 月独消費者物価指数（CPI）速報値（予想：前月比▲0.4%/前年比 5.0%）
- 22:30 ◇ 7-9 月期カナダ経常収支（予想：46 億カナダドルの黒字）
- 22:30 ◇ 10 月カナダ鉱工業製品価格（予想：前月比 1.3%）
- 22:30 ◇ 10 月カナダ原料価格指数（予想：前月比 3.5%）
- 24:00 ◎ 10 月米住宅販売保留指数（仮契約住宅販売指数、予想：前月比 1.0%/前年比なし）
- 30 日 05:00 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、あいさつ
- 30 日 05:05 ◎ パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長、あいさつ

30 日

### <国内>

- 08:30 ◎ 10 月完全失業率
- 08:30 ◎ 10 月有効求人倍率
- 08:50 ◎ 10 月鉱工業生産速報

### <海外>

- 09:30 ◇ 7-9 月期豪経常収支
- 09:30 ◎ 10 月豪住宅建設許可件数
- 10:00 ◎ 11 月中国製造業購買担当者景気指数（PMI）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

26日 18:51 ゴーダン南アフリカ公共事業相

「新たな変異株が経済に及ぼす影響を評価するのは時期尚早」

「英国の渡航禁止措置は早すぎる」

「新たな変異株について10日間でさらに明確化すると予想」

26日 22:16 ピル英中銀金融政策委員会(MPC)委員兼チーフエコノミスト

「雇用市場は引き続き堅調」

「雇用市場が引き続き堅調なら、金利は今後数カ月で徐々に上昇する必要」

「インフレが引き続き目標を上回っていると予測される場合、利上げを継続できる」

「一方、インフレが目標を下回ると予測される場合、維持するか利下げすることができる」

「政策行動のための準備が整った」

26日 23:26 エルドアン・トルコ大統領

「トルコの金利は今後低下する」

「国民が高金利に苦しむことはなくなるだろう」

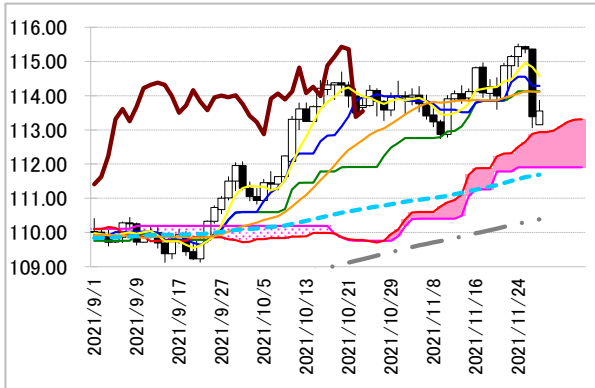
27日 00:23 ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁(一部通信社が報じる)

「インフレは来年1月から鈍化すると予想」

「パンデミック緊急購入プログラム(PEPP)の純購入は来春に終了する見込み」

※時間は日本時間

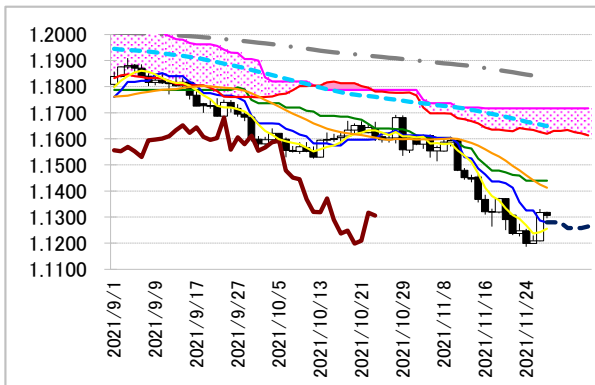
## 〔日足一目均衡表分析〕



＜ドル円＝114円台の抵抗試し、高値圏を回復できるか注視＞  
大陰線引け。10日以来の113円割れをうかがう展開となった。

同節目目前で下げ渋っており、現在112.93円に位置する一目均衡表・雲の上限を支えに、いったん戻りを試す局面となるか。114円の節目や一目均衡表・基準線114.13円、転換線114.29円などの抵抗をこなし、年初来高値圏のレンジへ戻ることができるか見定めたい。

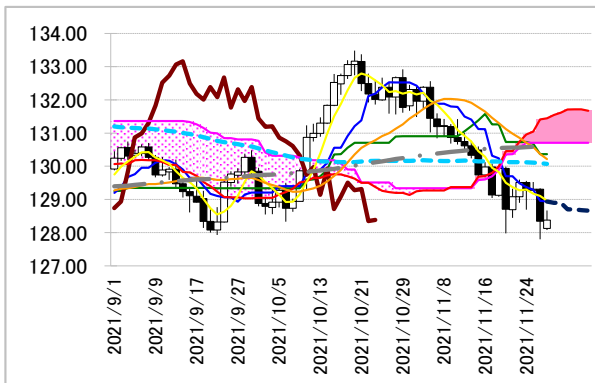
レジスタンス2 114.49(11/23安値)  
レジスタンス1 114.00(11/24-26下落幅の38.2%戻し)  
前日終値 113.38  
サポート1 112.93(日足一目均衡表・雲の上限)



＜ユーロドル＝上抜けた転換線は十分な支えになりにくそう＞

大陽線引け。一目均衡表・転換線の抵抗をこなし、1.1331ドルまで上値を伸ばした。しかし、上抜けた転換線は依然として低下傾向で、反落した場合の下支えになりにくいだろう。下押し局面での振れ幅が大きくなる可能性があり、動きは不安定か。

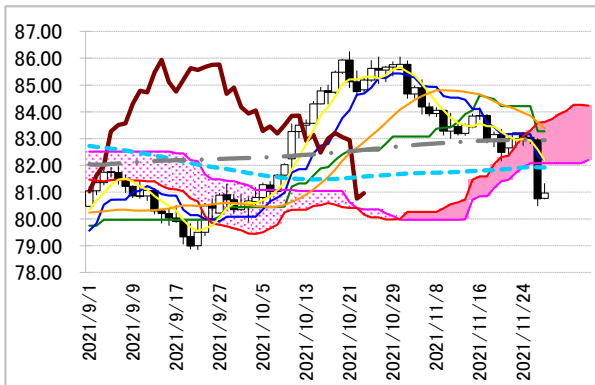
レジスタンス1 1.1374(11/18高値)  
前日終値 1.1317  
サポート1 1.1259(11/24-26上昇幅の半値押し)



＜ユーロ円＝転換線を抵抗とした、128円台の重い動き想定＞

下影陰線引け。一時127.80円と、2月24日以来の128円割れとなった。19日の127.98円に続き、128円割れで下げ渋ったものの、前回と異なり128円台での戻りがやや鈍そう。128.94円まで低下した一目均衡表・転換線が上値を抑え、129円回復を妨げるとみる。

レジスタンス1 128.94(日足一目均衡表・転換線)  
前日終値 128.35  
サポート1 127.80(11/26安値)



＜豪ドル円＝直近の下落の31.8%戻しなどが抵抗に＞

下影大陰線引け。10月1日以来の安値80.48円までの大幅安となった。値ごろ感からの自律反発は想定できる。しかし週明け早朝の取引では、81円台へ戻したところで動きが重い。直近の下落幅の38.2%戻り81.54円や、11日安値81.86円といった水準が目先の抵抗。82円回復は容易ではなさそうだ。

レジスタンス1 81.54(11/23-26下落幅の38.2%戻し)  
前日終値 80.76  
サポート1 79.90(10/1安値)

